

事業評価調書

◎基本情報

年度	2013	会計コード	10	一般会計	事業コード	37193	
事業名	道内地域活性化連携事業						
評価担当課	所属コード	市長政策室政策企画部企画課					
	担当者名	小野	電話番号	211-2192			
政策名							
施策名	主	3-2-4 道都としての役割を発揮し北海道の活性化に向けた道内市町村との連携強化					
	副						
事業の性質	☒ 経常経費 ☐ 内部管理 ☒ 内部管理以外 ☐ 臨時的経費						
事業内容	目的と取組の内容	札幌の持つ都市機能を最大限に生かし、北海道が持つ豊かな資源との連携による新たな価値の創造や道内の経済循環を促進するほか、北海道全体の魅力を道内外に発信するなど、北海道の中心都市としての役割を果たしながら、北海道とともに発展する札幌を目指していく。 【取組内容】 ①道内市町村へのアンケート調査の実施 札幌の活用実績、都市機能活用ニーズ調査を道内全市町村に実施 ②「つながる地域ホットライン」の開設 道内連携に関する札幌市の総合相談窓口として開設（H25年度相談件数：64件） ③「ぐるっと地域訪問」の実施 全14振興局を訪問し、札幌市の考え方や取組の説明や地域との意見交換を実施 ④道産食彩HUGでの「お試し出展」の実施 道産品の販路拡大や札幌市民に安全・安心な道産品を紹介することなどを目的とし、道産食彩HUGにおいて、お試し出展を実施（29市町村から90品が出展。うち12品が継続販売へ移行） ⑤「さっぽろ活用促進ゼミ～さつ活」の実施 市町村職員を対象に、活用可能な施設等の視察及び具体的な活用方策について紹介（25市町村31名参加）					
	主たる受益者	道内市町村、札幌市民、札幌市					
事業の必要性	「まちづくり戦略ビジョン」で掲げた「北海道の発展なくして、札幌の発展はない」との考え方の下、札幌の魅力や経済活動が、北海道の人々、自然、資源などに支えられたものであり、札幌の発展は北海道と共にあることを常に意識しながら、北海道の中心都市としての役割を果たしていく必要がある。						
実施期間	☐ 単年度 ☒ 単年度継続 ☐ 複数年継続			開始	2013 年度	終了	年度
実施形態	☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助・助成 ☐ その他						
関連法令							
他都市の状況							
関係HP	http://www.city.sapporo.jp/kikaku/renkei/index.html						
関連計画	新まちづくり計画	☐ 対象 ☒ 対象外				計画コード	
	その他関連計画	札幌市まちづくり戦略ビジョン					

短縮コード:37193

(単位:千円)

◎事業費

	23年度決算	24年度決算	25年度予算	25年度決算	26年度予算
事業費(A)	0	0	2,000	1,854	9,444
特定財源					
国・道	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
一般財源	0	0	2,000	1,854	9,444
人工	0.0	0.0	1.6	1.6	1.6
人件費(B)	0	0	11,680	11,680	11,360
計(A+B)	0	0	13,680	13,534	20,804

事業費の内訳	[平成25年度決算] ○ぐるっと地域訪問:572千円○道産食彩HUGにおけるお試し出展支援:523千円○さっぽろ活用促進ゼミ～さつ活:66千円○その他事務費:693千円(時間外手当等) [平成26年度予算] ○札幌の都市機能の活用促進(2,763千円)○市民への道内魅力発信(3,912千円) ○その他事務費等(2,769千円)
--------	---

◎指標

指標1	指標名	札幌の都市機能を活用したことがある市町村の割合				
	設定理由と結果分析	札幌の活用が図られているかを把握する指標 例)施設等の活用(チカホ、大通公園等)、広報媒体の活用(北2条広場、広報さっぽろ等)、人材				
	目標・実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度目標	25年度実績
					80%	70.8%
指標2	指標名	道内連携の取組に呼応した具体的な動き(件数)				
	設定理由と結果分析	道内連携の動きを道内市町村に拡げていくための目標を定めた指標 例)札幌市への相談件数(つながる地域ホットライン)、ぐるっと地域訪問における参加市町村数、道産食彩HUGへの「お試し出展」へ参加した市町村数、さっぽろ活用促進ゼミへ参加した市町村数、市町村長の来庁数等				
	目標・実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度目標	25年度実績
					356件	275件
指標3	指標名					
	設定理由と結果分析					
	目標・実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度目標	25年度実績
指標4	指標名					
	設定理由と結果分析					
	目標・実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度目標	25年度実績
指標5	指標名					
	設定理由と結果分析					
	目標・実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度目標	25年度実績

市民自治の 観点からの 評価	札幌市HP内に道内連携の取組に関するページを設置し、随時取組内容について情報提供を行ったほか、広報さっぽろや、広報番組などを通じて、取組内容についての周知を図った。
事業の 検証	まちづくり戦略ビジョンで掲げた「北海道の発展なくして、札幌の発展なし」との考え方に基づく、本市の取組について、実際に道内全14振興局を訪問し、各地域の方々に直接説明を行うことができた。 また、この意見交換の中では、札幌を活用したいが、地域PRに有効な施設等について、どのようなものがあるのか分からないといった意見が寄せられた。 こうしたことから、道内市町村職員を対象に、「さっぽろ活用促進ゼミ」を開催し、市内施設の視察や各施設の管理者などから、効果的・効率的な活用方法についての説明会を実施した結果、この取組をきっかけとして、札幌市中央卸売市場と地域との連携事業などが実施された。
	道内連携の取組を道内市町村に幅広く知ってもらうという初年度の取組として、当該事業費により、道全14振興局を訪問することができた。また、さっぽろ活用促進ゼミについても、受け入れ規模に対し、妥当な事業水準であった。
	道内各地域と、直接の意見交換を実施することで、地域の生の声としてのニーズ把握を行うことができた。また、道産食彩HUGでの「お試し出展」においては、これまで、札幌で販売されることの少なかった地域の特産品の販売のきっかけづくりができたほか、市民が安全・安心な道産品を購入するなど、市民が参加しやすい道内連携の取組として実施することができたことから、道内連携の取組を道内市町村や市民に幅広く知ってもらうという初年度の事業手法として妥当であった。
	[先進性] 道内全市町村を対象に、札幌の持つ都市機能の活用を幅広く促すことで、札幌だけでなく北海道全体の発展を目指す取組は、北海道の中心都市としての役割を意識した先進的な取組であった。
	地域との意見交換などの実施により、道内市町村に札幌市の考え方が一定程度、周知されたと考えられるが、引き続き、こうした意見交換の実施などにより、地域ニーズの把握や連携の可能性を模索していく必要がある。 また、札幌・北海道の一体的な発展を目指すため、札幌の持つ都市機能の更なる活用を促進させるとともに、具体的な連携事業の構築に努めていく必要がある。
今年度予算での 見直し内容	地域との意見交換の中で、札幌の持つ都市機能の活用に向けての課題が明らかになったことから、こうした障壁を取り除くため、札幌の施設や広報媒体等の活用方法について紹介する「札幌☆取扱説明書」を作成し、道内各地域に配布するほか、札幌市民の周遊促進による交流人口の拡大を図るため、道内各地で開催されているフォトコンテストの優秀作品を一堂に集めた写真展「いいとこ撮り北海道～フォトコンサミットin Sapporo」を地下歩行空間で開催する。

自己評価 A: 効果的・効率的に行い、十分な成果が出ている B: 部分的な改善・見直しが必要 C: 全体的な改善・見直しが必要 D: 廃止を含めたあり方の検討が必要		☐ A ☒ B ☐ C ☐ D ☐ 評価省略対象事業
		地域との意見交換を通じ、道内市町村とのネットワークを構築することができた点は、初年度の大きな成果と言える。こうしたネットワークが一過性のものとならないよう、引き続き、地域との繋がりを密にしながら、今後の具体的な連携事業を検討していく必要がある。 また、札幌の活用を促進するため、札幌の施設や広報媒体を紹介する「さっぽろ活用促進ゼミ」を通じ、多くの市町村職員に、札幌活用のきっかけづくりを行うことができた。
次年度予算に向けて	どのような取組にするか(方向性)	☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止・廃止 ☐ その他 札幌市の取組を定期的に道内市町村に発信しながら、地域とのネットワークを維持するとともに、市民への発信を強化するなど、札幌の持つ都市機能が最大限に活用されるよう取組を展開していく。
	改善内容	なし
これまで取り組んできた改善・見直しの内容 なし		

[全庁的な視点による検討課題の提起・外部評価からの指摘]

[上記指摘に対する改善・見直しの検討結果]
